

大杉栄の殉難記念集会

わが国、社会主義運動史上、特筆すべき無政府主義者の巨星、大杉栄は大正十二年九月十六日、伊藤野枝と宗一少年とともに東京憲兵隊本部で虐殺された。今年はあれから五十年に当るので、われら同志は左のとおり、記念講演会を開いて、彼の残した思想と行動をふり返り、世界的な激動期に当って無政府主義思想の拡充強化につとめたいと思う。

彼は徹頭徹尾、身をもって権力社会に反抗しつづけたが、不幸にして志半ばにして倒れた。今日、敗戦によって民主主義憲法が生れ、人間尊重が叫ばれているが、社会思想を失った労働運動や権力争奪に明けくれている社会運動の現状を見ると、日本革命運動の先駆者、大杉栄の貴い犠牲を無駄にしてはならない。なるほど五十年前と今日では社会事情も変わったが、資本主義国家権力体制は旧態依然として昔のままで。

支配階級は一般大衆の自由と幸福の追及をよそに軍備の強化をはかり、かつての天皇制軍国主義時代へと逆行しつづける。われわれは、法律と強権によって資本家階級を擁護し庶民生活の自由を拘束している現状を打破して搾取なきアナキズム自由社会を建設するための革命運動をさらに押し進めねばならない。このとき、懐疑者のごとく思索し、信者のごとく行動せよと叫び自から陣頭に起って、正気の犯人ぶりを發揮した大杉を想う。われわれ同志は、大杉栄の殉難五十周年を記念して講演会を開き、無政府主義思想の正しい理解を求めるとともに、一般大衆の奮起を呼びかける。

九月十六日は台風20号の影響で東京は夕景から雨になった。若い人びとのピラマキは大変で、道行く人も難儀していた。労働会館8階会議室に参集した約50名の方達

は故大杉にゆかりの人を始め、未知の顔ぶれがみえる。正面講壇の呼びかけは「資本主義経済制度の変革」「反権力反体制運動の強化」「全世界軍備施設の撤廃」「自治協同組織の促進」「無政府共産社会の建設」。正面向って右寄りの壁に黒旗を貼る。登壇者は三浦清一、和田英吉、はしもとよしはる、武良二、小山一彌の諸氏であった。記念会はアナキスト・クラブを中心にした有志により開催された。

京都では9・16実行委員会によって当日、府立婦人センター別館ホールで集会が開催された。

大杉、ベルグソン、サンジカリズム

大杉没後50年を経ますと私達が彼を知る手がかりは彼の残した書物しかありません。彼は行動の人ですが文筆家としても一家を成した人です。彼の作品で気がつくのは造語が上手ということでしょう。知的手淫であるとか砂糖水のような、とか正気の狂人、美は乱調にあり……というような造語が本人は苦勞して作ったという風ではなく至極素直に文章の中で生きています。平易な文章です。しかもその平易さの中に張りつめた論理は非常に個性的でちよつとやそつとは切り込めないものを感じさせら

れます。彼の文章の大筋は話し言葉で構成されているのです。これを幸徳秋水の文章に比べると違いがよく判るでしょう。幸徳は革命は平地に乱を起すようなものではなく「渠成って革命成る」と言うのです。つまり水の流れる道筋ができて初めて革命があるということです。獄中で彼がしたゝめた陳弁書を別として大体漢文脈の文章が主で翻訳でも漢語多用の美文調です。これはルソーの「民約論」を漢訳した中江兆民先生が訳にあたって漢語の使用を励めているのに依るかも知れませんが、彼の教養が漢籍と江戸戯作文学にあったのですから当然でしょう。幸徳の叙景文は作家齊藤緑雨に比肩するものが見受けられます。大杉の場合では日本語の性質上漢字の使用は当然ですが、漢文脈による文節で思想を表現している所は少く、文語的言い廻しも少い。その理由を明治から大正にかけての時代的推移だとすれば簡単ですが作ろうと思えば作れた筈で現に同時代人島村抱月、厨川白村には文語調の作品があります。ここで書き言葉と話し言葉の利害得失をあげつらうことはしませんが、チヨムスキー理論という言語学の理論を発表し、また現代アナキズムに発言しているノアムチヨムスキーによると、話し言葉が先で書き言葉が後だとのこと。また造語能力こそ言語の特質であるとも言っています。私は漢語による

成語熟語の活用は既に作られた文意を利用するのであって、口語体の方がより自我に即して発言するのに適していると思います。大杉の書物で私を感じるの、それが平易なこと、労働者に判るようにと工夫して書かれていても知性がすみずみまで行き渡っていること、彼の知的風土は科学の世界で養われていて、この点クロボトキンの風土とよく通じること等です。思想傾向は科学主義なのです。ところで興味深いのは大杉がベルグソンの紹介者であることです。調べてみますとヨーロッパでは一八八〇年〜一九二〇年にかけて哲学の主流はベルグソンになっていきます。クロはベルグソンを反動哲学と規定している。なぜそうなのか、これは当時迄の思想の主流が科学主義でスペンサーの総合哲学にみられるように諸学を科学的に処理し記述するのが特長で、ダウインの自然淘汰説が強力に作用していた訳です。そこへベルグソンが「意識に於ける直接所与」をもって思想界に現われ、これは米国ではウィリアムジェームズに激賞され、彼の地位が確立しました。大雑把に申しますとベルグソンでは意識だとか自我、自由意志、時間、生命力が研究の対象で、これは事実の学、客体としての事物の記述とは全く異質のもので、以前は神学の分野、観念哲学の分野で扱われていたのです。クロが反動と呼んだ理由です、大杉

がベルグソン哲学にひかれたのはフランスのサンジカ運動関係の文献に通読していたことに無縁ではありません。サンジカリズムに革命サンジカリズムというのがあってそのイデオログはGソレル、Fペルーチェで、ここに多くのアナキストが参加しました。彼等は他の社会主義者達と違って、サンジカを政治的に利用しなかったと：ソレルは褒めています。この革命的サンジカリズムの運動をバックアップしたのが他ならぬベルグソンの哲学でした。無論ベルグソン自身の思想過程にサンジカ運動の推進原動力とか勧告めいたものは見られません。彼の政治的立場は「善い市民とは法律に従う、それも自己の認めた法律に：」とあるぐらいです。では何がサンジカリズムに結びついたのか、それはソレルや大杉の書きものを読めば判るのですが大略は次ぎのようなものの考え方です。第一、事物を理解するにはその事物の廻わりをまわって事実関係を規定しても何もならない。むしろ事物の本質は直覚によって理解すべきだ。第二、時間についてみると、時間は物理的時間とわれわれの内的時間がある。物理的時間は空間に於て計量されるが内的時間は分割できないし計量化されない。それから時間は持続である。今この現在とは、一瞬前の過去と連うし未来でもない。しかし過去の経験を含み、未来をはらむ現在である。

この持続離れて時間は論じられない。質は決して量に還元できない。第三、エランビタル（生命力）の問題。人間の生命力は無限の発展性を備えている。従ってこれを外的に規定したり、計画的に処理することはできない。これに関連して、第四、反知識主義の立場でした。サンジカリストはかような思考方法を活用したのでした。即ちサンジカリズム運動はベルグソン哲学やアナキズム運動とは別個にそれは全く労働者の生活権擁護から出発しています。然し十九世紀の社会主義運動では様々な傾向がありました。知識人が一貫して努力したのは、現実の経済要因を踏まえてこれに考えられる限りの当時の社会条件を勘案して、理想社会の建設に役立てようとしたのです。ユートピアとは現実の欠陥を知的に排除した完全社会です。モリスの「News from Nowhere」を見ても判ります。また評者によると国家に対する考えの変遷を三段階に分け、第一が18世紀で国家は無視されるか視野に入っても別にどうすると言うではない。第二、ブルードン、マルクスのように現実的に国家と離反して闘争する段階、第三、理論的に国家を廃棄する段階としています。サンジカリズムは第三段階に属しますが、どうかといつてユートピアの代換えにすぎるものではないありません。整然と秩序があり、計画化された国家に抵抗す

るのに労働者各自の生命力の躍動をもってした訳です。その結果がよかったか悪かったか今日でも有効かどうかはしばらくおいて、以上のようにみてくると大杉の思想は一層よく理解されるのではないでしょう。大杉が生のは、その背景にベルグソンがあり、フランスを中心としたサンジカリスト運動があったのは明白です。さてここまではベルグソン哲学の受容者としての大杉を追ってきただけですがここからは日本の風土における彼の働きをみてみましょう。彼がベルグソンから生命力を中心に据えたりアナキズムを学びそれをどのように開花させたか、私は大杉を幸徳の正統な後継者だとみています。無論、思想や運動の世界で或る人の事業を受けつぐと言うのは科学者のそれとは違います。研究室での仕事の引継ぎなら方程式をみれば先任者の意図は判るし、その方程式に従って新物質の発見とか合成は出来ます。しかし社会運動では人間の要素が大部分を占め、客観条件が主体に作用する。従って一見何の脈らくもない所から後継者は出てきますが、その際後から来る者は前任者の軌跡を知らず知らずの内になぞりながら、また異質の方面から入ってくる事がある。大杉の場合、全く幸徳のサークルから成長しているのです。彼は幸徳の友人知己に共通な社会主

義の土壌からで、アナキズムを深めました。幸徳が第一回社会主義者大会で田添鉄二と議会議会主義社会主義が直接行動アナキズムかの論争で、アナキズムに固執した時点から日本に於けるアナキズムの独自性が確立されたとみる私は、大杉が共産主義を媒介として堺利彦、荒畑寒村氏らと袂を分つ経緯が即ち彼のアナキズムの深化とともにサンジカ運動とのかかわりに於てアナキズムの一個の完成に至ったと見るのです。それはまたアナキズムに含まれる自我の重視とつながっています。彼がイブセンをアナキズムの思想家としたのは、エマゴールドマンなどを知っていたせいもあるでしょうが、社会に於ける自我の位置づけに関心をもっていたことを示すものです。

幸徳秋水のアナキズムは自由民権運動の流れを汲む社会主義運動への展開―特長は明治政府体制に対する在野的反抗から主権在民思想への発展―ロシア革命の予兆による社会主義の急進化―と考えますが、大杉のアナキズムはこれを自我の無目的な躍動を中心に据えた現代のアナキズムへ変貌させたのです。私達のアナキズムが自我の重視から入ると大杉につながるでしょう。

（はしもと）

崇神（たたり神）浅之助の面貌

菅田正昭君が青ヶ島に伝わる東台所（とうだいしょ）神社の縁起、そしてその祭神浅之助に関する民話について研究したもので、菅田君自身が今までに学び、集積して来たものが縦横に駆使されて深く感銘させられる。

あらしの中で幾日も孤立せねばならない島、火山が噴火すれば絶滅の危機にさらされる島、孤島の酷しい条件のなかで続けられる人間のいとなみ、そのいとなみに参加した菅田君、やたけのおんがしは、そのいとなみの中から一でいらぼん通信」（今第6号まで出ている）を出しさらにこの研究を発表した。ガリ版でページ五四〇字二〇ページのものである。

記録に伝えられた浅之助は名主の家に生れ、人を殺傷して入水したとされているが、伝承の浅之助は初他火小屋（初潮の娘がこもる月小屋）に娘をおそって共同体のタブーを犯し、追われ、斧をもって反撃に出て殺傷したを追いつめられて、神子の浦の大岩の神子様に祈って呪咀し、海に飛びこんだが、荒波に打返され捕えられて刑死したという。浅之助の呪咀、その荒魂をしずめるために神社がつくられたという。

平和な島の中の共同体のタブーを、ふみにじる異常人浅之助の直情径行が三段階の挫折をもって破壊すると論考し、彼の在り方を魏志倭人伝に出てくる持衰に結びつける。そして最後に史実に結びつけ、東台所神社と金比羅神社との新旧、新神と呼ばれる東台所神社とハヤムサにまでおよぶ。

幸うすい島に、相寄り相助けて生きる人たちにとって神々もその一員である。自然の猛威、そして一人の異常人の遂げられぬ直情と呪咀。広い土地だったら逃げて行くところもあるかも知れないが、小さな島ではそれもかなわない。死んでも矢張り島人と一緒だ。その死にざまをあわれむ人、たたりを恐れる人、皆異常人を忘れはしない。共同体は神社に彼を迎える。菅田君のこの小著を読んで、島と浅之助、そして島に育った若い日を思うのだった。（三浦）

X

リベルテールの会

会として今定期的に開いている会合は、次の二つである。適宜自由に参加されたい。

1. 火曜サロン、いつの間にか、こんな名になってい

アナルシスト黒十字（ABC）

アナルシスト黒十字は国際救援機関である。その最初は一九一九年にソヴェエトでつくられた。革命後のロシアで弾圧され、投獄されているアナルシスト、サンジカリスト、リベルテール社会主義者たちを救援するためであった。彼等は革命成功後のロシア政府に迎合することを拒否して投獄され、酷遇のため飢え、また死ぬのだった。大きな危険を覚悟して、食料や衣料を送るための「黒十字」がつくられた。鉄道も郵便も復旧していないために北極圏のソロヴェツキ島などの収容所にいるリベルテールに救援物資を届けるためには馬車で行かねばならなかったし、救援物資を持って行く途中で捕えられる危険もあった。こうした悲劇とともに奇蹟も起る。

一九二一年に黒十字は国外に広がる機会が来た。この待望の好機はモスクワで開かれた国際労働者会議で、この会議には各国から有名なアナルシスト、アナルコ・サンジカリストたちがヨーロッパの労働組合の代表者として参加していた。この時モスクワのタガンカ獄その他ではアナルシストたちが酷遇に抗議してハンガー・ストライキを初めていて、これが黒十字の人たちによって労働会議の代表者たちに持ちこまれた。問題となって、狼狽した政府は、「これは単なる暴徒で、アナルシストやリ

る。何のテーマもなく自由に話合うだけ、気焰をあげようと、朗読や研究発表しても良い。国内国外からの近着アナルシスト機関誌などもお目にかける。毎週火曜夜6〜9時水道橋駅近く、神保町寄りの最初の横町、喫茶店「終着駅」二階、コーヒー代は各自自弁のこと。

2. 近代学校、もとリベルテールの会として毎月一回開いていたものを、僕が千葉県に越したため99回で打ち切り、信太君のやっていた近代学校に引継いでもらった。テーマはその都度通知する。参加希望者は住所氏名明記の上リベルテールの会に申込まれたら。会費50円

毎月第3木曜夜6〜9時、池袋駅東口、三越裏、豊島区役所隣、豊島振興会館二階

火曜サロンには、アメリカ人WWのメンバーだったゴルド君も来たし、最近はいギリスからニアリー君も来て、インタナショナルな会になったこともある。

萩原晋太郎君の所を訪問される方もあるということだが、リベルテール紙の発行所としてお願いしているのでもリベルテールに御用の方は、この会に出て、自由なわれに人間的に接触されたい。（三浦）

X

ベルテール社会主義者たちを投獄したことはない」と釈明して押通すだけだった。

このとき兵役拒否運動をして国外追放になった、エマ・ゴールドマンも来合わせ、ロシア共産主義の現実に幻滅して、この投獄されているリベルテール革命家たちのために戦いはじめた。一部の代議員たちは会議でレーニンとの会見を申入れたたり、議題にも上程したが、レーニンは「暴徒だ」一天張りだった。トロツキーにも同様に申入れ、トロツキーの方は中央委員会にはかつて、国外追放という条件で釈放しようと考えて、これが実現された。これが黒十字の起源と拡大の初めであるが、この救援の運動は今、黒十字としてでなく、他の名称で国際的に続けられている。

アメリカのシカゴで一九七二年三月にシカゴ黒十字（OBO）ができた。事務所をIWWホールにおいて活動を開始し、南北アメリカはもとより、ヨーロッパの監獄で不当な、苛酷な待遇に苦しんでいる同志たちに、確実な情報にもとずいて連帯しようとしている。（三浦）

× 荒畑さんをねぎらう会

八月一四日、荒畑寒村さんをねぎらう会が銀座の旗亭大雅でひらかれた。志賀義雄、鍋山貞親、高橋正雄氏ら

望辰さんのお顔は、アナ連などで一度位お見かけした筈だが、どうも記憶がない。

氏は黒連に加わって斗い、「無差別社」を組織して部落解放運動をたすけ、「小作人社」を結成して農民運動をもりあげた。行動的で親分肌の人であった。戦後も近藤憲二らを迎えて大宮で、浪花節と抱き合せの無政府主義演説会をひらくなどの逸話がある。本書は四九人の同志・知己・親族の追悼文、追悼座談会記録からなっている。望辰さんの家業・印刷業を継いだ「望月兄弟会」の刊行だけあって、A5判四百頁の豪華本である。（萩原）

× 『ハイエナ企業市民審査会報告書』

ベトナム戦争に反対し朝霞基地の撤去を求める「大泉市民の集い」は、更に、ベトナム侵略戦争に加担しベトナム人民の血を吸って繁栄している企業を告発攻撃し続けている。六月五日表記の大会を全電通会館でひらき、ソニー、松下、本田技研、三菱重工、伊藤忠の悪らつ非道な実体をあばき多くの共鳴支持を呼んだ。資料希望のかたはカンパを添えて下記に申込まれたい。

練馬区大泉学園二八三和田氏方「大泉市民の集い」（萩原）

× 『高島洋詩集』神戸市灘区灘北通四一三九、高島洋

五〇人が参集した。せわ人は添田知道、平岩巖、近藤真柄、大浜亮一氏。会は岡本文弥師の至芸明鳥で始まった。林家正蔵氏の随談は、枕で社会運動にちょっぴりふれ吉原の籠を楽しく聞かせた。荒畑氏は八六才を迎えられて意気ますます盛ん。中央公論の「平民社時代」の大作も完成されたという。今後も偉大な先哲として又歴史の生証人として、十分御自愛の上語り続け書き続けて頂きたいと思う。（萩原）

× 本屋にない本の紹介

『町のおばさん・添田キク形見草』タテ三寸六分、横五寸、アート紙一三六頁の『町のおばさん』。添田知道氏が心をこめて作られた愛妻追悼文集である。荒畑寒村の弔歌、大木惇夫の弔詩をはじめ、六八人の追悼の詩・歌・句・文からなっている。

数々の追想は、故人のよき人柄と暮しぶりを髣髴させる。そして数葉のスナップが、親愛な「町のおばさん」の生き生きとした容姿をとどめている。本のサクも、故人が愛用された火鉢の猫板の木目を拓本にした凝ったものである。おばさんもさぞかし御満足の事であろう。（萩原）

× 『望月辰太郎追悼集』天恩・地恩・人の恩

去年の正月、久々で高島氏と大阪で呑んだ時、彼は「いよいよ停年だが、ささやかな退職金で詩集を出そうと思っている。これがせめてもの生き甲斐だったようにも思える」と語った。その念願の詩集が出た。戦後ずっとつきあってきたが、彼程クソマジメなアナキストらしい男はいない。鉄鋼労連の役員をしたが、腐りきった空気に耐えられず日新製鋼に入り、守衛の職を嫌って（会社側からの圧迫や甘言を蹴って）資材倉庫の一労働者として斗い続けた。彼の性格と行動を映し出した詩集がこれだ。A5判一三六頁、頒価千円、申込は前記高島へ

× 林景明氏を救え！

二つの中国を主張していたブル新も財閥も、「台湾は中国の領土」といい出した。台湾は蒋介石のものでも毛沢東のものでもない。台湾は台湾人の自治に委せる！

所で先に三省堂から「知られざる台湾」を出し、一戦時中一枚の赤紙で日本軍人として戦場にかり出した台湾人を、今は一枚の白紙退去令で死地に追いやる日本政府を告発した林景明氏は、退去令無効の訴訟をおこし二年余になる。そして死につながる敗訴の見込が大きい。

彼は今度『台湾処分と日本人』を刊行した。劇的な発言で歴史の考証も豊かである。一人でも多く本書を購読

し、真の台湾問題を理解し、林氏の救済に力をかそう。

目黒区下目黒五―三四―一六「林景明氏支援の会」

定価千円、支援連絡センターは渋谷区恵比寿3―37―13

(萩原)

×

『永久革命への騎士・高尾平兵衛』評

高尾氏の生家の事、幼児の事、それから告別式の事等色々教えられる事多く、特に長崎まで足を運ばれを熱意には敬服致しました。

(松尾尊)

今迄知らなかった新事実が幾つも明らかに成り、貴重なお仕事だと思います。

(大沢正道)

×

北富士や建碑(宮下太吉の)の事で遠藤斌君と行動を共にしています。皆様の御健闘を御願します。小島康彦

×

◇高尾平兵衛

アナルコサンジカリズム、アナキズム運動年表は下記の書店にも置いてあるのでご覧願いたい。

神田ウニタ、吉祥寺ウニタ、文献堂(早稲田)、芳林堂(池袋西口)、ちくさ正文館(名古屋)、三月書房(京都)、京都書院、大阪ウニタ、イカロス書房(神戸)、未来書房(小倉)、アテネ書房(札幌)

来訪について

本誌発行所が独立した事務所だと思って訪ねてくる人がいる。然し便宜上発行所としていただけで萩原個人の住居である。月一回発送に何人かくるが、集会は別掲の終着駅や豊島振興会館等で行っているの、話し合い希望の方はそちらへお出で願いたい。また以前はよく宿泊を引受けたが目下借金マミレの上、早朝から腰弁で稼ぎに出ているので、宿泊と週日の訪問はご遠慮願う。(萩原)

訂正

連載中の「戦後の思い出・杉藤二郎」中に次のような校正ミスがありました。筆者からの御注意により訂正いたします、申訳ありませんでした。

○第32号(一九七二年七月号)

第1ページ下段、終から数えて四行目

職員が三千人 とあるのは 三百人 の誤り

○第33号(一九七二年八月号)

第13ページ下段最後に脱落がありました

「明日からの運動について話合った。組合へ初出勤した私は」を挿入

会からのお知らせ

○近代学校の十月例会は会場を確保することが出来ませんでしたので休みます。

○十一月例会は十一月十六日(木)午後七時―九時です。会場の都合で開会時間がおくれます。

○梵の創刊号が出ました。九州で発行されたアナルシズム理論誌。福岡市友泉亭第一町83の15無明社発行 一部一〇〇円

リベルテール 一部 100円

Le Libertaire 毎月1回15日発行

昭和47年9月15日発行 Vo., III No 10

編集兼発行者 三 浦 精 一

発行所 東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方

リベルテールの会

(振替東京133830番 三浦精一)